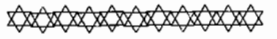


国鉄千葉動力車労働組合

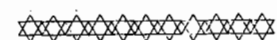
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二二七二〇七



当局の「集会参加禁止」なる妨害はねばし、220名で参加。布施書記長が決意表明



四月二十九日、動労千葉は、国鉄当局、権力の違法な妨害と弾圧策動をはねのけて東京・れき川公園で開催された「天皇在位六〇年式典粉碎・中曽根内閣打倒四・二九全国総決起集会」に二五〇名の部隊で参加し、反動中曽根内閣の天皇制復活―戦争国家づくりを弾劾すると共に、そのために国鉄労働者十万人の首を切り、労働運動を解体せんとする理不尽極まりない攻撃への怒りをこめ、都心を揺がすデモを貫徹した。



戒厳体制うちやぶり  
集会・デモ貫徹

三里塚反対同盟、関西新空港反対同盟、動労千葉をはじめ、全国の心ある人士の呼びかけにより開催された集会は、五四三〇名の結集のもと明石住民の会の加迎永吉氏、天台宗僧侶・青柳晃玄氏の司会で進められ、全関西実行委員会代表・永井満氏の主催者代表あいさつ、続いて日蓮宗僧侶・丸山照雄氏、ジャーナリスト・川田泰代氏、ルポライター・石田郁夫氏、北富士忍草母の会ら呼びかけ人あいさつを受けたのち、反対同盟・北原鉞治氏よりアピール、各地の闘いの報告をうけた。

満場の拍手の中で、あいさつに立った布施書記長は、動労千葉が集会に参加することについて、当局・権力は電車を止めても妨害するという暴挙に打って出てきたことを暴露・弾劾すると共に、戒厳令とも言うべき大弾圧体制の下で、反対の声をおしつぶし、再び天皇の名による戦争への道を絶対に許さないため、労働者の階級的良心をかけた断固闘う決意を明らかにした。

当局・権力の違法な「集会参加妨害」弾劾

本集会への参加に対し、当局・権力は、有事立法そのものの違法極まりない暴挙に打って出て来た。

国鉄当局は、四月二十五日、「天皇式典や東京サミット等、国家的重要な式典、会議に反対する集会に参加するな。参加した場合は厳正な措置をとらざるをえない旨の警告を動労千葉に申し入れ、各職場においても同趣旨の掲示をはり出した。

動労千葉は、直ちに当局に対し、抗議声明を発し、強く抗議したが、当局は「参加のため集団で電車に乗った場合、警察の要請にもとづき、電車を止めて降りてもらおう」ともあると、違法に違法を重ねる態度を明らかにしたのである。

有事立法―戦争体制づくりを許すな

これは、何よりも「思想・良心の自由」「集会

・結社・言論・表現の自由」を保障した憲法第九条、第二十一条をふみにじる違法行為であり、労働組合の団結権に対する支配介入であり、不当労働行為そのものである。

さらに、問題なのは「国家的に重要な会議等：」と、国家のやる事に反対することを違法行為とみなすという超反動的思想で貫かれていること。「電車を止めてでも：」に示されるように、警察が判断すれば何をやってもよいという、まさに有事立法そのものの体制がすでに今日まかり通るうとしているという重大な事態が進行しているということである。

われわれがこれに屈したならば、まさに暗黒の政治支配―戦争国家体制を認めることになってしまふ。われわれは、この恫喝をうち破り、全員作業服・ゼッケン、ヘルメット、ハチマキで意気高く集会に参加し、「式典粉碎、サミット粉碎、中曽根打倒」の声を高らかに、都心を揺がすデモを貫徹し、中曽根・国鉄当局の横腹に風穴をあけたのだ。

敵の凶暴な攻撃のエスカレーションは敵の余裕のなさの表現である。四・二九につづき、五・四東京サミット粉碎闘争に決起し、中曽根の反動プランをガタガタにし、中曽根を打ち倒すことで、分割・民営化を何としても粉碎しよう。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

4. 29

「天皇戒厳令」弾圧ぶち破り  
5400名が「式典粉碎・中曽根打倒」に決起

有事立法―戦争体制づくりを許すな

これは、何よりも「思想・良心の自由」「集会

女性も「戦争会議を許すな」  
全力で「式典粉碎」  
10月5日 宮下公園